

＜ひとことメッセージ＞

空腹のため、山道を歩いて1時間以上の通学に耐えられない小学校低学年、午後はほとんど授業にならない高学年。そんな児童たちのために給食を実施します。(3年間の予定)

月額 500 円の教育支援金でこのプログラムを支えて下さる方を募集します。



2005年7月23日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

227-0033 横浜市青葉区鶴志田町 516-11

TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933

E-mail: hands-ty@r07.itscom.net

http://www.jca.apc.org/~hands/

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

## 奨学生、大学卒業後の試み



スヌーリア(左端)の活動を支えるのは、3年前アムグ村でビラーンのための組合と学校を創設した、従兄のノベルト(右端)と仲間たちです。

昨年 NDMU 商学部を卒業したスヌーリアが、精力的に住民の組織化と自分たちの学校づくりに取り組んでいます。メールの署名に「Snuria/Fruit of HANDS(HANDSの成果)」と書いてくる彼は、私たちが教育支援を始めた8年前からの奨学生です。卒業したらビラーンの仲間のために働きたいという初志を貫いて、4月には多目的住民組合 Bolul Amtutung(ビラーンの聖なる山マトウトウンを意味するビラーン語)を創設、政府登録も済ませました。

組合員は184名(7月14日現在)、一口1600ペソの組合費全額を支払ったものは10名程度。大多数は分割納入400ペソや入会金100ペソだけで加入しました。

8年前からの住民の夢だった「アトゥモロックにハイスクールを」も、Amgu-oにある同じくビラーンの組合が運営する学校の分校として、6月に実現させました。

町ではビラーンはすぐ物を乞うといわれる。でもそれはビラーンのためといいながら、本当にビラーンのための事業が実施されなかったから。自分は大学で学んだ事を生かして、物乞いしなくても生きられる村にしたい。住民も同じ仲間だから信頼してついてきてくれる。(スヌーリアのEメールより)

事務局からの質問や助言に答えて、週2、3回届く彼のメールはいつも希望と確信にあふれています。しかし、スヌーリアの真摯で労を惜しまぬ姿勢は評価しつつも、経験不足が心配されます。COWHED、PFPなど、住民組織化の経験が豊かな現地NGOの助言を得ながら見守りたいと思います。

## リーダーシップを発揮しCOWHED再生にとりくむ

レイクセブで10数年、チボリ女性の健康と経済的自立を支えるプロジェクトにかかわってきたメルチさんが、5月に開催されたCOWHEDの年次総会で組合長に選ばれました。

39号、41号で報告したCOWHEDの直面する赤字体質の改善、製品の品質向上、市場開拓などの課題に取り組んでいきます。HANDSも10月の各種フェスタやバザー(6ページ参照)で現地製品の販売に努めるとともに、顧客の意見を伝え、製品改良を支えています。4、5月のイベント収益はすでにCOWHEDに還元し、新製品開発費、スタッフ手当補助等に充当されました。



竹笛、ビーズ、ティナラク製品などが並ぶ店舗で(左から:店舗担当マイダさん、運営主任ダイアナさん、組合長メルチさん)